

第一部福島原発災害後の科学と社会のあり方を問う分科会

(第22期 第1回)

日時 平成24年3月2日(金) 11時00分～13時00分

会場 日本学術会議 6-A(1)会議室

出席者 島菌進・後藤弘子・杉田敦・吉川泰弘・鬼頭秀一・才田いずみ・広渡清吾・藤垣裕子・船橋晴俊

議事

各自自己紹介の後、議事に入った。

(1) 役員決定

互選により、委員長に島菌進、副委員長に後藤弘子、幹事に鬼頭秀一、杉田敦を選出した。

(2) 委員の補充について

木下尚子会員(熊本大学・史学)を委員とすることを了承した。

(3) 今後の分科会の進め方について

以下のような論点が出された。

- ・来年の3月11日を目処に中間的な報告をまとめる。
- ・人文・社会科学のあり方についても対象とする。
- ・科学者個人の責任論にとどまらず、学術会議、および学界全体のあり方について議論することとする。
- ・科学を市民がどう受け止めているか、ヒアリング等の機会を設ける。
- ・リスク管理に成功すると、危機が生じないので努力が顕在化せず、評価につながらないというディレンマをどう考えるか
- ・メディアを通じた科学的コミュニケーションのあり方などについても検討する。
- ・学術会議内部においても、各分野が「タコツボ化」していることを問題にする。
- ・科学と政策決定との切り分けが従来不十分であり、科学者に政策的な判断まで求めるという従来のガバナンスの問題点を明確にする。
- ・とりわけ原子力政策は、政治、防衛政策とも関係する問題であり、社会のあり方全体の中で、科学・技術がどう位置づけられてきたのかを検討する。

(4) 次回について

今回は、吉川弘之・名誉会員から意見聴取を行うこととする。日程については、5月初旬を軸に調整する。

以上